



るもい風土資産カード

苫前くま獅子舞

不屈の開拓精神を後世に伝える
三毛別罷事件の郷土芸能

一頭のヒグマに10人が殺傷された三毛別罷事件を題材に創作された郷土芸能「苫前くま獅子舞」は日本で唯一、熊をモチーフにした獅子舞として、昭和57年(1982年)、苫前町文化財保護条例に基づく「苫前町無形文化財」第1号に指定されました。また、昭和61年には文化財の保護と保護思想の普及が認められ、「苫前町くま獅子舞保存会」が北海道文化財保護功労賞を受賞しています。

獣害史上、最大の惨事となった三毛別罷事件は大正4年(1915年)12月の事件以降、人々の口から語られることはありませんでしたが、開拓時代の精神を後世に残そうと、昭和48年(1973年)2月に保存会が発足。きっかけは、古丹別神社の氏子関係者が、昭和45年に閉山した羽幌炭砦の一つ、築別炭砦の神社からお興と獅子頭2つを譲り受け、古丹別の獅子舞を作り出そうとしたもので、郷土に根ざした趣のある獅子舞にしようと、三毛別罷事件が題材に選ばれました。獅子頭をヒグマの頭に変え、笛、太鼓、舞の振り付けすべてを会員たちが創作。週3回、一年で160日余りの練習を重ね、町民手づくりの苫前くま獅子舞が完成しました。第三章からなるストーリーは第一章が「開拓の夜明け」、第二章の「熊騒動」は「犠牲」「凱歌」「熊嵐」で構成され、第三章の「豊かなふるさと」でエンディングを迎えます。

平成9年に町内小中学生による「苫前町くま獅子少年団」が結成されましたが、平成19年に休団され、高齢化や過疎化によって会員が減少し、後継者の確保も困難となり、現在は活動が滞りがちですが、保存会員一同、不屈の開拓精神を後世に伝えるため、価値ある郷土芸能を継承しています。

見どころ

入植した開拓民の姿や喜び、冬將軍の到来と同時に訪れたクマとの闘い、悲劇の後も希望を捨てずに立ち上がる開拓民の姿が表現された苫前くま獅子舞は、笛と太鼓の演奏で神楽風に仕上げているのが特徴。クマに模した頭や独特の面、舞などすべて町民の創意工夫によるものです。

ポイント

第三章から構成される苫前くま獅子舞のクライマックスは巨熊が住民を殺傷し、さらにヒグマが射殺され、その直後、「熊嵐(くまかせ)」という大暴風雪が吹き荒れる第二章の「熊騒動」。笛や太鼓の音色とともに迫力ある舞が見る人の感動を誘っています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴 触 味 嗅 知

聴 笛と太鼓の演奏で神楽風に仕上げられた獅子舞を聴くと、当時の開拓民の姿を表現しようと創意工夫した会員の方々の想いが伝わってきます。

知 苫前くま獅子舞は昭和54年に北海道教育委員会の留萌管内教育実践表彰を受け、昭和57年に町の無形文化財に指定。その後も北海道文化財保護功労者賞を受賞するなど、多数の表彰を受けています。

■基本情報(R7.3)

所在地：苫前郡苫前町字古丹別
指定内容：苫前町無形文化財
指定年月日：昭和57年3月1日